

意 見

水道事業会計は、過去9年間黒字経営を続けてきたが、平成22年度は、521億3千万円の単年度赤字となった。また、工業用水道事業会計は、3億5千万円の単年度黒字であり、15年連続の黒字となった。

平成22年度の決算において、水道事業会計の事業収益は、料金単価の値下げに加え、年間給水量が減少したことから、給水収益が55億6千万円減少したため、前年度と比べ39億5千万円減少した。また、水道事業会計の事業費用は、支払利息6億6千万円の減少などがあったものの、特別損失として利水撤退を決定したダムに係る損失等543億9千万円を計上したことなどにより、前年度と比べ543億2千万円増加した。

また、工業用水道事業会計の事業収益は、年間有収水量が減少し、給水収益が4億4千万円減少したことから、前年度と比べ23億3千万円減少した。また、工業用水道事業会計の事業費用は、支払利息1億3千万円の減少などがあったものの、特別損失として固定資産除却に係る損失を1億6千万円計上したことなどにより、前年度に比べ6千万円増加した。

大阪府水道部は、平成23年3月31日に廃止され、同年4月1日から、大阪広域水道企業団に、すべての事業を承継したところであるが、給水収益が減少傾向にある中で、今後予定されている大型施設等の更新費用を賄うためには、今後とも効率的な事業運営を行っていくことが望まれる。

企業団として、引き続き効率的な事業運営ができるよう、経営努力されたい。